

放射線リスクコミュニケーション 相談員支援センターだより

募集型車座意見交換会の例

5 町村 おはなし & 交流会

近年、双葉郡の町村に県外等から転入する世帯が増えています。そこで、令和7年2月15日、比較的孩子が増えており、こども園等の保育施設がある5町村（広野町、楡葉町、富岡町、大熊町、川内村）の保護者を対象に放射線について気軽に質問や意見交換ができる機会を設けることを目的とした車座意見交換会を行いました。今回は、広野町、大熊町、川内村から保護者6名、1～10才の子ども9名の計15名に広野町保健センターにお集まりいただきました。

意見交換を行うにあたり、講師兼ファシリテーターとして長崎大学の柏崎佑哉先生をお迎えし、はじめに放射線の基礎知識に関する講話を行いました。講話では、柏崎先生からの問いかけに保護者が答える場面もあり、会話のキャッチボールを楽しみながら学んでいる様子でした。保護者は、放射線の健康影響やがんのリスク、モニタリングポストの数値等に興味を持っていたようでした。



柏崎講師による講話の様子

次に、広野町食生活改善推進協議会員のご協力のもと、広野町で採れた食材を調理したちらし寿司やお吸い物を食べながら意見交換を行いました。今回使用した広野町産の食材は、お米、にんじん、ほうれんそうです。すでに検査済であったお米以外の食材は、前日に広野町公民館にある食品等の放射能簡易分析検査センターにて放射能濃度を測定し、その検査結果報告書をもとに、柏崎先生からすべて検出限界値未満であった測定結果や食品の基準値に関する説明、食品検査所の案内がありました。調理を担当した食生活改善推進協議会員からは、減塩食品や食育について解説がありました。



食生活改善推進協議会員による解説の様子

盛り付けは参加者がそれぞれ自分好みにいき、ひな祭りをイメージしたかわいらしい料理に子どもたちは大喜びでとても盛り上がっていました。



🏮 ちらし寿司、ヨーグルト、お吸い物 🍡

意見交換では、「放射線に関する新たな知識を得ることができた。また、双葉郡で普段生活するうえでは、あまり気にしなくて大丈夫であることが分かった。」「福島県内で採れる野生の山菜等が食べることができるようになって初めて安心することができる。」「不安が少しでもなくなるよう、正しい知識を今後も追究していきたいと感じた。」等の意見がありました。また、川内村に住む小学生からは、「毎年学校で放射線の授業があるため、放射線のことを知っている。」との声もありました。以前、大熊町内で開催されたイベントで柏崎先生の放射線の講話を聞いたことがある方や町から貸し出された線量計を持っている方もおり、参加者が様々な方たちで放射線に関する情報を得ていることも分かりました。



意見交換の様子

放射線リスクセンターでは、第一原発事故当時避難指示等が出された12市町村を中心に住民向けの車座意見交換会等を実施しており、多くの意見や感想をいただきますが、毎日食べる食品からの放射線の影響が気になるという方は少なくありません。会の中でも話が合った通り、福島県産の流通している食品は検査されており、自家栽培野菜等の放射能濃度を測定する検査所が設けられている市町村もあります。このような施設を利用することも暮らしの安心に繋がりますので、ぜひご活用いただければと思います。

みなさんが放射線の正しい情報や知識を得ることにより良い生活ができるよう、今後も継続的に意見交換会や情報提供の場を設ける等、支援を続けていきたいと思っています。



住民セミナーの例

福島大学附属中学校 放射線教育

令和7年1月20日、福島大学附属中学校3年生を対象とした放射線教育を行いました。講師に原子力安全研究協会の松原昌平先生を迎え、クラスごとに放射線に関する講義と実習を行いました。



講義の様子

講義では、放射線の単位や種類、半減期や放射線が人体に与える影響等について学習しました。実習では、GMサーベイメータを使用し、食塩や校庭の土等、身の回りにあるものの放射線量を測定し、放射線は身近に存在していることを確認しました。生徒の皆さんは、塩や昆布等、日頃から口にしている食べ物からも放射線が出ていることに驚いている様子でした。



実習の様子

どのクラスの生徒も、メモを取りながら熱心に話を聞いている姿や、実習時には黙々とワークシートに自分の意見や感想を記入している姿も見られました。



終了後アンケートには、生徒より、「放射線や核エネルギー等に関する話に大変興味があったため、講義を受講して良かった。」「今後も福島の放射線の影響について全国に発信していきたい。」等をはじめ、多くの意見や感想をいただきました。教員からは、「東日本大震災から時間が経ち、放射線に関する知識が少ない生徒が多いため、役に立つ内容であった。」「生徒たちが自分のこととして考え、協力した活動によって学びを得られたように感じた。」等の声もありました。今回の放射線教育が生徒の皆さんのこれからの活躍の一助になれば嬉しく思います。



班ごとの発表の様子

住民セミナーの例 会津大学短期大学部 放射線教育

放射線リスクミセセンターでは、平成 30 年度より会津大学短期大学部食物栄養学科 2 年生を対象とした放射線教育を実施しています。食物栄養学科では多くの学生が栄養士を目指しているため、放射線と食品に関するテーマを設けたいと要望を受けています。7 回目となる今回は令和 7



年 1 月 24 日、放射線の基礎知識と食品中の放射性物質について学ぶことを目的とし、各専門の講師をお迎えしました。

はじめに、自然科学研究機構の佐瀬卓也先生から、放射線の基礎知識について講義を行いました。放射線の性質、用語解説に加え、体に多くの放射線を受けたときの健康影響等、詳しい説明がありました。第一原発事故の概要や空間線量率の変化に関する話もあり、事故当時幼かった学生たちは興味深そうに話を聞いていました。会津若松市出身の佐瀬先生は、福島県民として放射線について正しく知り、風評に負けない知識と心を養う大切さを学生たちに伝えていました。



佐瀬講師による講義の様子

次に、農業・食品産業技術総合研究機構の八戸真弓先生から、食品中の放射性物質について講義がありました。食品の水洗いや調理、加工による放射性セシウムの濃度変化について話があり、実際に野菜や山菜、米等を調べた具体例が示されました。また、食品から受ける被ばく線量や流通食品に関する対策と現状の解説がありました。学生たちは熱心に要点を資料に書き込んでおり、食品と真摯に向き合う姿が見られました。



八戸講師による講義の様子

学生からは、「放射線が与える人体への影響を詳しく知ることにより、誤った情報に左右されない様になると思った。」「食品との関連で他の人にどの様に伝えるべきかを本日学ぶことができた。」「当時、福島県やその周辺で採れた食品が危険であると言われていたが、知識を付けることにより認識や是正につながると感じた。」等の感想がありました。今回学んだことや感じたことを将来に役立てていただければと思います。

車座意見交換会

地域における活動に関する 意見交換会

令和7年2月21日、12市町村を中心とする地域で活動を行っている若者を対象に、地域における活動に関する意見交換会を開催しました。

この会は、日頃から地域の活動等に携わり、住民と接する機会が多い方に放射線リスクセンターを知ってもらい、住民から放射線不安等の声が出た際に、住民と放射線リスクセンターを繋ぐ懸け橋となってもらえるよう、地域の皆さんとの新たなネットワークづくりを目的として、放射線リスクセンターが企画しました。

当日は、南相馬市、川俣町、大熊町、浪江町、飯館村を拠点に、地域の賑わいづくりや営農等、地域づくりの活動を行っている7名が参加しました。

はじめに、飯館村で地域住民を対象に様々な取り組みを行っている菅野クニ氏より情報提供を行いました。飯館村における第一原発事故後から現在に至るまでの



情報提供の様子

経過や現在の状況に加え、菅野氏が放射線リスクセンターの支援を受け、これまでに行ってきた勉強会の事例等について話がありました。

次に、原子力安全研究協会の山田孝一先生をファシリテーターに迎え、「地域とのかかわり方や今後の活動について」をテーマに意見交換を行いました。

意見交換では、参加者それぞれの活動を紹介した後、地域住民とのかかわり方や福島県や放射線に対するイ

メージ等について情報交換を行いました。移住先の地域で活動している参加者から菅野氏に対し、「地域住民の方は移住して農業に従事している人に対してどう思っているのか。」という問いがあり、菅野氏は「農業を始めてから放射線に関することで不安になってしまふことを心配しているため、第一原発事故の影響等を理解した上で移住してきているのか疑問に思うことがある。」と回答しました。その他、「放射線に対する考えは地域住民間でも対立することがあるため、自分は中立的な立場に立つことが多い。」「数値できちんと説明できるようにしないといけないと思っている。」等の意見がありました。また、農業に携わっている参加者もいたことから、「地域住民と移住者を交えた農業の話をもっと深めたら面白そうだった。」といった意見も出ていました。



意見交換の様子

今回この場でできた繋がりや学びを、参加者の皆さんの今後の活動に生かしていただくと共に、地域に放射線不安でお困りの方がいた際には、放射線リスクセンターをご紹介いただければ幸いです。

放射線リスクセンターでは、今後も地域で活動する皆さんとのネットワークを生かし、放射線不安をお持ちの方に寄り添い、必要な支援をお届けして参ります。

放射線リスクコミュニケーション相談員支援センターだより No.44

発行：放射線リスクコミュニケーション相談員支援センター

連絡先：〒970-8026 いわき市平字小太郎町1-6

いわきセンタービル5階

フリーダイヤル：0120-478-100

FAX：0246-35-5158

E-mail：F-sodan@nsra.or.jp

